ケーススタディ: 本田技研工業株式会社 2009年度環境年次レポート

2008年度の目標・実績と2009年度目標

製品のライフサイクルの各領域において高い目標を設定し、その達成に向けてさまざまな活動を展開。 次なる目標に向けて、さらなる環境負荷低減に努めます。 ○:目標達成、△:達成度95%以上100%未満、X:達成度95%未満

	取り組み	方針	施策	2008年度目標	2008年度実績	達成 库心	2009年度目標	参照ペー
	排出ガスのクリーン化		低排出ガス車の拡大	「★★★低排出ガス車」、「★★★★低排出ガス車」認定※1の拡大	8機種12型式が新たに取得	0	「★★★低排出ガス車」、「★★★★低排出ガス車」認定※1の拡大	P.34
	四輪車	燃費の向上	新技術投入による効率向上	さらなる燃費の向上	企業平均燃費25.4%向上(2000年度比)	-	さらなる燃費の向上	P.33
	100 PM - 1	代替エネルギー製品の開発		今後、順次拡大	新型燃料電池車FCXクラリティのリース販売開始		今後順次拡大	P.35
商品開発領域		排出ガスのクリーン化		排出ガス性能の向上継続展開	スクーターへのFI適用完了	-	FI適用拡大	P.36
	二輪車	燃費の向上	新技術投入による効率向上	スクーター以外への適用拡大	VTRへのPGM-FI適用	-	低フリクションエンジン投入拡大	P.36 — P.37
		排出ガスのクリーン化	規制の先取り対応	今後、順次拡大	単体エンジンのCARB Tier3 規制対応を継続		今後、順次拡大	
	汎用製品	燃費の向上	新技術投入による効率向上	さらなる燃費の向上	新型除雪機構、エンジン回転数制御などによる燃費の向上		さらなる燃費の向上	
	and the second second second	代替エネルギー製品の開発	The Control of the Co	今後、順次拡大	コージェネレーションユニットの販売拡大	-	今後順次拡大	P.37
購買領域	グリーン購買の推進		お取引先における製品(部品・資材)中の 化学物質含有量削減	ハンダ鉛の削減を推進	一部部品においては既にハンダ鉛フリー化を完了	0	Honda化学物質ガイドラインに基づく切替推進	P.39
			お取引先の製造時環境負荷管理 ^{※2}	お取引先CO2排出量の低減	2000年度比で原単位6.4%低減	0	お取引先CO2排出量の低減(原単位)	P.39
				お取引先埋立ゼロ化の継続	お取引先埋立ゼロ化の継続	The state of the s	お取引先埋立ゼロ化の継続	
				お取引先廃棄物等発生量(原単位)1.1%低減(2007年度比)	お取引先廃棄物等発生量(原単位)1.5%低減(2007年度比)	-	お取引先廃棄物等発生量(原単位)低減	
				お取引先水資源使用量(原単位)低減	お取引先水資源使用量原単位6.4%増加(2007年度比)		お取引先水資源使用量(原単位)低減	
			お取引先への環境マネジメントシステム導入	未取得お取引先に対しての代替認証制度を含めた取得推進	管理対象全社において認証取得完了	110000	項目削除(所期目標達成のため)	P.3
	•			エネルギー消費原単位: 27.0%低減(1990年度比)	エネルギー消費原単位: 26.1%低減(1990年度比)		エネルギー消費原単位:28.5%低減(1990年度比)	
生産領域	グリーンファクトリーの推進		エネルギー効率向上	CONTRACTOR OF CONTRACTOR CONTRACT	TO SERVICE OF THE CONTROL OF THE CON	-		P.41,
				CO ₂ 排出量: 49.4万CO ₂ トン	CO ₂ 排出量: 42.7万CO ₂ トン		CO ₂ 排出量: 43.8万CO ₂ トン	
			廃棄物埋立処分「ゼロ化」 廃棄物(副客物)の際際	(埋立処分ゼロ継続)	(埋立処分ゼロ継続)	-	(埋立処分ゼロ継続)	P.4
			廃棄物(副産物)の削減	廃棄物の発生抑制	発生端材2次活用拡大	1000	発生端材の2次活用拡大	P.4
			VOCの排出低減	VOC排出原単位(四輪): 33.0g/m ²	VOC排出原単位(四輪): 32.6g/m²	O	VOC排出原単位(四輪): 32.7g/m²	P.4
輸送領域	グリーンロジスティクスの推進		物流会社への環境マネジメントシステムの導入	主要3社との環境マネジメント共同展開を引き続き継続	引き続き継続し、所期目標達成	The same of the same of	項目削除(所期目標達成のため)	P.4
			輸送効率の向上	CO2排出量: 原単位90.29g-CO2/トンキロ (四輪完成車輸送)	CO2排出量:原単位87.61g-CO2/トンキロ(四輪完成車輸送)	0	CO2排出量: 原単位89.37g-CO2/トンキロ(四輪完成車輸送)	P.4
			ノックダウン部品包装資材使用量の削減	ノックダウン部品包装資材原単位43%削減(2000年度比)	ノックダウン部品包装資材原単位44.5%削減(2000年度比)	0	ノックダウン部品:包装資材原単位44%削減(2000年度比)	P.4
販売領域	四輪車	グリーンディーラーの 推進	販売会社への環境マネジメントの導入	四輪販売店(連結会社)CO2排出量原単位:1%削減(2007年度比)	四輪販売店(連結会社)CO2排出量原単位:15.9%削減(2007年度比)	0	四輪販売店(連結会社)CO2排出量原単位:1%削減(2008年度比)	P.4
	二輪車		販売会社への環境マネジメントの導入	二輪販売店(連結会社)CO2排出量原単位:1%削減(2007年度比)	二輪販売店(連結会社)CO2排出量原単位:1.1%削減(2007年度比)	0	二輪販売店(連結会社)CO2排出量原単位:1%削減(2008年度比)	P.4
	汎用製品		販売会社への環境保全活動推進	汎用販売店(連結会社)CO2排出量原単位:1%削減(2007年度比)	汎用販売店(連結会社)CO2排出量原単位:4.2%削減(2007年度比)	0	汎用販売店(連結会社)CO2排出量原単位前年維持(2008年度比)	P.4
資源循環• 3R領域	四輪車	リサイクル性の向上	可能率向上	全ての新型車・フルモデルチェンジ車で90%以上	全ての新型車・フルモデルチェンジ車で90%以上	0	全ての新型車・フルモデルチェンジ車で90%以上	. P.49, 5
				全ての新型車・フルモデルチェンジ車でASR中塩素濃度1%レベル以下	全ての新型車・フルモデルチェンジ車・マイナーモデルチェンジ車で ASR中塩素濃度1%レベル以下		全ての新型車・フルモデルチェンジ車でASR中塩素濃度1%レベル以下	
		使用済み自動車の 適正処理・リサイクルに 向けた技術支援	使用済み自動車の適正処理・ リサイクルに向けた技術開発	リサイクルシステムの継続的な安定稼働	リサイクルシステムの安定稼動を継続	0	リサイクルシステムの継続的な安定稼動 使用済み自動車からの資源リサイクルの取組み	P.50, S
		リサイクル性の向上	可能率向上	リサイクル可能率向上	全モデル95%以上を維持		全モデル95%以上を維持	P.51
		使用済み自動車の 適正処理・リサイクルに 向けた技術支援	使用済み自動車の適正処理・ リサイクルに向けた技術開発	リサイクル率向上のための廃プラスチックマテリアル・リサイクル 一部導入、エンジン回収の一部導入	一部施設にて廃プラステイックマテリアル・リサイクルの導入、 エンジン回収・アルミ再資源化開始	0	セーフティネットとしての安定稼動	P.51
		リサイクル性の向上	可能率向上	リサイクル可能率向上	リサイクル可能率95%以上を継続	0	リサイクル可能率向上	1 1
		収・再利用の拡大	再生部品とリユースビジネスを併せた展開		再利用部品の機種拡大検討終了	-	再利用対象部品の拡充と回収の拡充	P.49,
	50			国内グループ会社17社28事業所でのCO₂排出量:38,188CO₂トン ^{※5}	国内グループ会社17社28事業所でのCO2排出量:35,585CO2トン ^{※5}		国内グループ会社17社全事業所でのCO₂排出量2008年度比1%削減 ^{※5}	
ナフィス領域	グリーンオフィスの推進		オフィス領域で連携した環境負荷 共通管理の推進	国内グループ会社17社28事業所での廃棄物発生量:1,894トン**5	国内グループ会社17社28事業所での廃棄物発生量: 1,798トン ^{※5}	-	国内グループ会社17社全事業所での廃棄物排出量:2008年度比1%削減※5	P.52,
			省エネ機器・高効率機器への更新	CO ₂ 排出量: 162,000CO ₂ トン	CO ₂ 排出量: 158,000CO ₂ トン	-	CO ₂ 排出量: 162,000CO ₂ トン	
本田技術	グリーンラボの推進			CO₂排出量原単位: 12%低減(2000年度比)	CO ₂ 排出量原単位:10%低減(2000年度比)		CO ₂ 排出量原单位:6%低减(2000年度比)	P.55
研究所			廃棄物(副産物)の削減	廃棄物(副産物)発生量原単位:31%低減(2000年度比)	廃棄物(副産物)発生量原単位:23%低減(2000年度比)		廃棄物(副産物)発生量原単位:30%低減(2000年度比)	
ホンダ エンジニア リング				廃棄物(副産物)発生量: 0.69万トン	廃棄物(副産物)発生量: 0.72万トン	Δ	廃棄物(副産物)発生量: 0.66万トン	
			省エネパトロールで省エネ診断を行い、	CO2排出量: 25,274CO2トン	CO2排出量: 21,989CO2トン	0	CO2排出量: 21,210CO2トン	
	グリーンラボの推進		部分停電などで全社活動を推進	CO ₂ 排出量原単位: 10.2%低減(2000年度比)	CO2排出量原单位:12.6%低減(2000年度比)	0	CO2排出量原単位: 11.2%低減(2000年度比)	P.56
			廃油の減量化、 プレス材料歩留り向上等を推進	廃棄物発生量原単位:2%低減(2006年度比)	廃棄物発生量原単位: 8.1%低減(2006年度比)	0	廃棄物発生量原単位:3%削減(2006年度比)	
				廃棄物発生量: 1,907トン	廃棄物発生量: 1,882トン	0	廃棄物発生量: 1,984トン	
	用品物流・ オフィスのグリーン化		老朽空調機の高効率化への更新と オフィス空調の適切な温度管理	CO ₂ 排出量: 1,613CO ₂ トン	CO ₂ 排出量: 1,385CO ₂ トン			P.57
				Department of the filter of the control of the cont			CO ₂ 排出量: 1,596CO ₂ トン	
				CO2排出量原単位: 8%低減(2000年度比)	CO ₂ 排出量原単位:16%低減(2000年度比)	-	CO2排出量原单位:9%低减(2000年度比)	
			リターナブルケースの使用による物流、	廃棄物発生量原単位:21%低減(2000年度比)	廃棄物発生量原単位:27%低減(2000年度比)	CALCULATE OF	廃棄物発生量原単位:25%低減(2000年度比)	
			廃梱包材の削減	廃棄物発生量: 365トン	廃棄物発生量:247トン	-	廃棄物発生量: 257トン	
			用品包装の簡易包装化による重量、 容量の削減	包装資材使用量原単位: 64.7%低減(2000年度比)	包装資材使用量原単位: 62.5%低減(2000年度比)		包装資材使用量原単位: 64.9%低減(2000年度比)	
				包装資材使用量: 1,018トン	包装資材使用量: 978トン	0	包装資材使用量: 888トン	

※1 ★★★低排出ガス車: 平成17年排出ガス基準に対し50%低減レベル車 ★★★★低排出ガス車: 平成17年排出ガス基準に対し75%低減レベル車

※2 対象お取引先:32社

※3 CO₂排出量およびVOC排出原単位の2009年度の目標は2008年度実績に対して増加していますが、これは生産背景や新規業務取り入れによるものです。

※4 リマン:リ・マニュファクチャリング。使用された部品を分解・再組み立てした部品

Honda 環境年次レポート 2009 Honda 環境年次レポート 2009

^{※5 2008}年度は本田技研工業(株)の9オフィスビル(青山、和光、白子、八重洲、札幌、仙台、名古屋、大阪、福岡)に加えて、(株)モビリティランド、ホンダ開発(株)、ホンダ太陽(株)、(株)ホンダコ ムテック、学校法人ホンダ学園、本田航空(株)、(株)ホンダトレーディング、(株)ジャパンテクノ、(株)ホンダファイナンス、(株)レインボーモータースクール、希望の里ホンダ(株)、ホンダアールアン ドデー太陽(株)、(株)ケイピーテック、中央航業(株)、サーキットサービスクリエイツ(株)、(株)日本レースプロモーションの国内連結グループ会社15社、学校法人1校を含む合計17社28事業 所を対象としています。オフィス領域2008年度目標の対象範囲も16社27事業所から17社28事業所に訂正しました。